

安全への提言



自覚的でありたい

まさきのりょうじ†

私は20年ほど前に経済学で学位を取り、現在は産業技術総合研究所に所属して自然科学・工学系研究者や企業（主に製造業）の方々と協力しながら研究しています。僭越ながら、境界領域に携わっている者として最近感じていることをこれまでの研究経験に関連付けながらご紹介します。何かの参考になれば幸いです。

大学で経済学—いわゆる近代経済学—を学び始めた頃は初めて触れる概念や分析手法の洪水に圧倒されていましたが、いつしかその魅力に引き込まれていきました。ただ当時は分析スキルを身に付けるだけで手一杯でしたし、また（一般的な読書体験等は別として）経済学しか学んでいなかったのも、その位置付けを相対化する必要性に迫られていませんでした。結果として、近代経済学の背後にはそれを支える功利主義という規範倫理学理論がありそれが帰結主義に属しているといったことを特に意識することはなく、少なくとも学び始めた頃は自分が功利主義的に考えていること自体を認識していませんでした。

さて2002年に産総研に入所したとき私の頭の中にはまだ経済学しかありませんでした。それから20年、環境リスク評価に始まり、産業保安、労働安全といった分野の研究に経済学を適用しながら携わっていますが、学際的な研究を進める中で否応なしに経済学あるいは功利主義を相対化する必要に迫られることになりました。

私が関わった範囲に限っても安全に関する話題は様々です。化学物質の環境リスク評価では影響範囲を広く面的に捉える場合が多いですし、統計的生命価値の考え方は「特定の誰」が被害を受けることに着目していません。一方で各社個別の労働安全や産業保安になると（潜在的な）被災者が自ずと限定されてきます。「特定の誰」という視点が出てくるわけです。あるいは、労働安全は労働者の安全と健康を確保し労働者の人権を守ることが重要な意図ですが、各社の安全向上がひいては日本全体の生産性向上・競争力強化に繋がるという観点も実際にありますし、あってしかるべきだと思います。

私は本誌 Vol.57 No.2 p.99 で次のように述べました。「安全に関する学術研究は机上の空論であってはだめで、社会に具体的な現実の安全を提供する助けになれば意味がない。」ここで問題が出てきます。具

体的な解決方法を提案するとき「・・・すべき」や「・・・するのがよい」という言い方をしますが、ここで「べき」とか「よい」とか言えるためには何らかの価値基準がなければならないということです。

ではその基準はどういうものでしょうか。経済学を専攻しているものとして功利主義には馴染みがあります。しかし「最大多数の最大幸福」をもたらす行為が正しいとなぜ言えるのでしょうか（そんなの当たり前？それともさらなる根拠が必要？）。自分自身の利益と全体の利益が衝突した場合に全体の利益を優先させるべきでしょうか。帰結主義ではない理論（例えば義務論に分類される様々な見解）を基準とすることはないでしょうか。基準によって望ましいと思われる行為（つまり問題解決方法の提案の中身）が異なるとき、どの基準を採用したらよいでしょうか。

常識道徳の範囲内で問題が解決できるなら実務上それで問題なく、日常生活の大部分は実際それで十分であると思われれます。しかし我々安全工学会のメンバーは常識道徳では対処しきれないという意味でシビアな問題に直面し、その解決方法の提案を社会から望まれていると思っています。簡単な答えはありません（例えば新型コロナウイルス感染症への対応）。

しかし答えを出そうとするとき、少なくとも、自分自身がどのような価値基準にしたがって思考しているのかについては自覚的でありたいと思います。時と場合によって思考の基礎となる価値基準を（極端な場合にはそれと認識せず）変えると、その時々で矛盾する対策を提案してしまい「場当たりの」と批判されることになりかねません。また他人と議論するとき、お互いに相手の価値基準を理解していると議論に無駄なエネルギーを費やさずにすみます。安全工学誌において既に議論が始まっており大変参考になります（杉本ら「科学技術と倫理の今日的課題」、Vol.58 No3以降6回連載）。

Vol.57 No.2 p.99 で次のようにも述べました。「（安全に関する議論の）発散を防ぐには核が必要である。専門が異なっても同じ土俵で話すことを可能にし、その意味において発散を防ぎ参加者を束ねるような核である。」安全工学会として統一の価値基準をもつべきだという意味ではまったくありません。安全に関する倫理的・哲学的な基礎を鍛え互いに共有することによって、たとえ個別の意見は異なっても、より建設的な対話が可能になるのではないのでしょうか。偉そうなことを書きましたが、私も道半ば、どころか、最初の一步を踏み出そうとしているところです。

† 国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門：〒305-8569 茨城県つくば市小野川16-1